２０２３年（令和５年）　８月１９日　土曜日

東奥日報　１４面　掲載

光星 4強懸け闘志

甲子園 きょう土浦日大戦

全国高校野球選手権で4年ぶりの8強進出を決めた本県代表の八戸学院光星は、19日午前10時35分開始予定の準々決勝第2試合で土浦日大（茨城）と激突する。光星ナインは18日、兵庫県西宮市の津門中央公園野球場で次戦に向け、最終調整した。（本紙取材班）

練習は午前11時ごろからスタート。ストレッチやキャッチボールを行った後、1時間以上を打撃練習に費やした。野手陣は相手投手陣を想定した打撃投手の球を次々と打ち込み、快音を響かせていた。

仲井監督は「ここまで勝ち上がってきたチームはどこも力と勢いがある。自分たちの力を最大限発揮したい」と話し、主将中澤恒は「打ち勝つ野球をするのはもちろん、守備では取れるアウトをしっかり取っていきたい」と気合を入れた。

土浦日大も、同市の鳴尾浜臨海野球場で最終調整。約2時間、左投手を想定したフリー打撃を中心に汗を流した。捕手で主将の塚原は練習後の取材に「いい相手との対戦を楽しみながら一戦必勝で臨む。長打を許さないよう、自信を持って配球したい」と意気込んだ。

19日の準々決勝で勝利すれば、準優勝した2012年以来11年ぶりの4強入りとなる。

「選手と一緒に全力で」

光星応援隊 173人が出発

19日に行われる全国高校野球選手権の準々決勝に向け、八戸学院光星高校の応援隊173人が18日、兵庫県西宮市の甲子園球場に向け八戸市の同校を出発した。

応援隊は希望する生徒や吹奏楽部、チアリーディング部、教職員らで構成。同校正面玄関で行った出発式で、中村良寛校長は「優勝を皆さんに託します。精いっぱい応援していただきたい」と激励。生徒を代表してソフトテニス部2年の平歩真さんが「日本一を目指して選手と一緒に全力で戦ってきます」と中村校長に抱負を述べた。

応援隊は学校に残る教職員や生徒らが手を振る中、同校を出発した。19日午前9時ごろ現地に到着予定。土浦日大（茨城）との準々決勝に勝利した場合、応援隊は京都府のホテルに宿泊し、以降の試合もスタンドで声援を送る。（相澤貴斉）

出発式で中村校長（右）に応援の意気込みを語る平さん＝18日午後

光星・仲井監督

「低めの見極めを徹底」

第105回全国高校野球選手権の準々決勝第2試合（19日午前10時35分開始予定）で、11年ぶりの4強入りを目指す本県代表・八学光星は、春夏通じて初の8強入りを果たした茨城代表・土浦日大と戦う。18日、両校監督が練習後に報道陣の取材に応じ、意気込みを語った。（本紙取材班）

―チーム状態は。

八学光星・仲井宗基監督　初戦は硬さがあったが、2戦やって地に足がついたと思うし、変な気負いもない。

土浦日大・小菅勲監督　数日前から心身のピークがきており、最高の状態で試合に入れる。

―相手チームの印象は。

仲井監督　投手陣はハイレベルで打撃陣は粘り強い。チーム全体に勢いがある。

小菅監督　甲子園の常連で、投打とも素晴らしい強豪チーム。

―警戒する選手は。

仲井監督　150キロ近い球速の小森投手はじめ、打線の中軸。特に3番後藤は非常にセンスがある。

小菅監督　3番でショートの中澤恒。広角に打てて、穴が少ない。前後の打者を打ち取ることが大事になる。

―勝利の鍵となる選手は。

仲井監督　日替わりでいい選手が出てほしい。投手陣にはチームを勝たせるピッチングをしてほしい。

小菅監督　全員がキーマン。甲子園で試合ができることを楽しみ、お互いにカバーし合ってほしい。

―理想の試合展開は。

仲井監督　膝から下のボール球の見極めを徹底し、どの投手が来ても打線をつないでいきたい。

小菅監督　3点以内で競り合い、後半勝負に持ち込みたい。投手陣には四死球を少なく抑えてほしい。

―意気込みを。

仲井監督　ここからは総力戦。ベンチ入りの20人全員が力を発揮し、一戦必勝で4強入りを目指す。

小菅監督　自分たちの力を発揮するだけ。悔いなく、思い出に残る試合をしたい。

「競り合い後半勝負に」

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです